質の高いケア環境を目指す介護情報誌

D wing

ディー・ウィング

VOL. 31

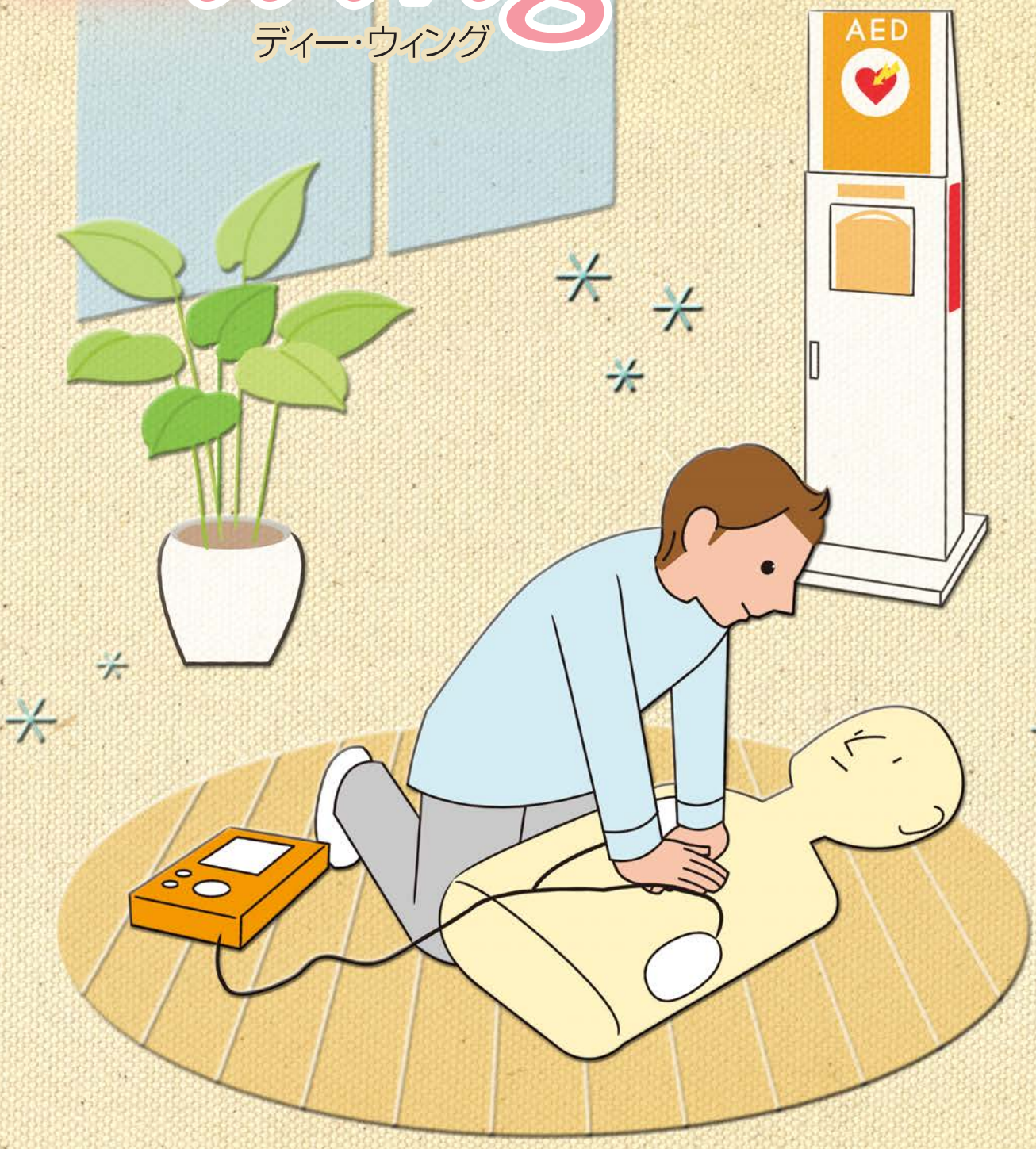
第14回 この人に聞く！ お仕事のヒント

始まる、介護事業所の地域貢献事業

第29回 Care Point

介護者が知っておきたい

AEDを用いた心肺蘇生法



この人に聞く! お仕事のヒント 第14回

始まる、介護事業所の地域貢献事業

社会福祉法の改正によって、2017年4月から社会福祉法人が運営する介護事業所は何らかの地域貢献事業を行うことが義務づけられました。
地域に開かれた事業所として、どのようにして地域のニーズを拾い、事業計画を作り上げていくか ――。
そのポイントを、地域福祉の実態に詳しい一般社団法人リエゾン地域福祉研究所の代表理事・丸山法子さんに聞きました。

まず地域課題を把握することから始めよう

▼法改正で地域貢献事業を行う責務を規定

―今回の社会福祉法改正では、どのような点が変わったのですか

「社会福祉法人制度の改革」と「福祉人材の確保の促進」という2つのテーマで改正されました。地域貢献事業に関係するのは前者で、社会福祉法人のあり方にいくつかの改革を求めています。経営管理体制の強化のために評議員会を必ず置き、会計監査を導入して事業運営の透明性を高めるとともに、利益剰余金を保有する法人は、それを活用して無料または低額な料金で地域の社会福祉事業や公益事業を行うことを義務づけました。

―急に地域貢献事業をするようにと言われても戸惑いがあります

日常業務を行いながら地域貢献事業に取り組むことになると確かに負担は増えますし、現場には戸惑いがあるでしょう。でも、この流れをプラスに捉えて、さらに地域に根づいた法人になる絶好の機会と考えるべきだと思います。

▼地域貢献事業に取り組む意義

―地域貢献事業に取り組むと、具体的にはどんなメリットがありますか

事業所が持っている介護の専門性を生かして、地域にとって良いことや必要なことを行えば、住民から頼りにされ、存在意義を示すことができます。事業を展開する中で住民とのコミュニケーションも深まり、「この事業所で働きたい」と優秀な人材も集まって来るでしょう。また、職員が「地域の人の役に立ちたい」と自ら進んでプランを企画する人材に育っていくことが期待できます。さらに、職員が協力し合うことで、おのずと組織運営力も向上するでしょう。

地域貢献事業は、事業所、住民、職員の全てにとってメリットがあるwin-winの取り組みでなくてはなりません。

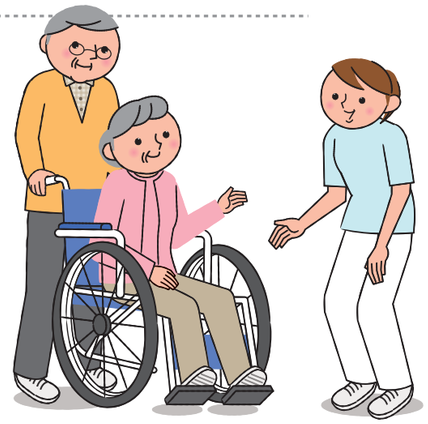
▼地域住民のニーズを把握する

―事業計画を策定するにあたって、まず何から始めればよいでしょうか

地域社会の中で、ないと困る「必要なこと」や、あれば幸せが得られる「大切なこと」を見つけましょう。これを〝地域課題〟といいますが、地域課題はあくまでも自法人の理念に照らして検討することが大切です。法人の理念から外れた事業や、事業所側が必要だと勝手に思い込んだ事業、たまたま補助金がとれたという理由だけでスタートした事業などはうまくいきません。あくまでも「地域住民のニーズ」に基づく自分たちの理念に沿った事業であることが重要です。

―事業の対象者はやはり高齢者を想定するのですか

高齢者に限らず、子どもや障害者も含めた地域住民全てが対象者です。その誰かが今必要としていること、将来必要になりそうなことを見つけましょう。



▼生活上の困りごとを聞き取る

―地域住民のニーズは、どうすれば把握できますか

今日からできることですが、事業所の利用者さんやその家族に「何か困っていることはありませんか」「ご近所で困っている人はいませんか」と聞き取ることから始めます。地域の自治会や町内会など生活に密着した場でも、情報を得ることができます。

また、地域ケア会議や介護保険事業計画策定会議、地区社会福祉協議会などの会議に積極的に参加し、地域課題を把握することも大切です。最初はオブザーバーで情報収集し、慣れたら出席枠を確保するのです。自治体や地域包括支援センターなどは地域の情報を持っているので、担当者と日頃から良好な関係を作っておき、個別に聞き取りや相談をすることも効果的です。

集めた情報は事業所で集約し、小さな問題でも全ての職員で共有する仕組みを持つことが必要です。

アクションプランを立ててみよう

▼「期間限定」からスタートする

―事業計画の具体的なプランはどのように作るのか教えてください

地域課題を見つけたら、なぜするのか、何をするのかを明確にし、地域課題の解決に貢献できる方法や過程を整理して事業内容を決めます。例えば、利用者さんの家族が食事作りに困っているという課題があったら、事業所で調理した食事を弁当にして届けるといった実現可能なことをミニサイズから始めてもよいのです。それも「まず一度やってみよう」とか「とりあえず3カ月やってみよう」といった期間限定で行います。日常業務にあまり負担のかからない形で始め、走りながら改善していきましょう。

▼担当者や業務内容を合意形成する

―問題は「誰がやるか」だと思いますが、どのように決めたらよいですか

指名制、手挙げ方式、部署で担当、プロジェクトチームを組むなど、事業所の組織形態や取り組む事業内容に合わせて考えましょう。事業の見通しが立ったところで必ずやっておきたいことが、事業所内部での合意形成です。誰が担当するのか、担当者はどんな業務をどの範囲で担うのか、そして予算や責任の所在といったことが、経営層から現場まで事業所全体に周知され、合意を得ていることが肝心です。

―限られた少ない人員であまり負担を感じないで実施する方法はありますか

運営組織は、担当の業務範囲をきっちり決めずに、緩やかな担当制にするとよいですね。余力がない事業所では地域のボランティアに入ってもらい、一緒に活動するのです。地域に密着した事業になるので、ボランティアにとってもメリットは大きいはずです。職員だけで実施するより地域住民の協力が得られる仕組みにしておくと、機動力がアップします。ボランティアの活動が地域での就労の機会創出につながることもあります。

▼告知は丁寧に効果的に

―いよいよ事業開始です。地域にはどのように告知したらよいですか

チラシやパンフレットを作成して配布する、ホームページやSNSを活用する、地域の広報紙に掲載してもらう、地元のマスコミに依頼して記事にしてもらうなど、より多くの人に利用してもらえるように広く告知します。

とりわけ、サービスを必要としている対象者には確実に伝わるよう、個別に趣旨を説明するなど、丁寧な対応を行います。また、自治体や関係団体に対しても事前の挨拶と告知を徹底し、事業への理解と協力を求めましょう。

■地域貢献事業のアクションプラン策定の流れ

「期間限定」計画の検討ポイント
- 何をするか、なぜするのか
- どんな人に対して行うか
- 誰が担当するか
- どのように進めるのか
- 予算・費用はどうするか

実施に向けた準備
- 期間の想定:いつからいつまで
- 手順の共有(マニュアル作成)
- 役割分担と責任者の決定
- 事業所内の合意形成
- 地域への周知活動

<実施後>
- ヒアリングやアンケートによる意見収集
- 期間限定の地域貢献事業の評価～修正

MESSAGE 丸山法子さんからのメッセージ

丸山法子さん
一般社団法人リエゾン地域福祉研究所(広島市)
代表理事

地域貢献事業は地域の期待に応えるチャンスです

■地域貢献事業を成功させる第1のポイントは、地域住民と組織経営層が一緒にアクションプランを策定することです。事業所側の思い込みで一方的に策定された事業計画は、地域の理解と協力が得られず、結局うまくいきません。地域住民との協働で進めることを念頭に置き、日頃から地域住民が参加できるミニセミナーや勉強会などを開催して、地域に開かれた事業所を目指しましょう。

■具体的に事業を決める際のポイントは、「小さく始めて大きく育てる」ことです。多くの場合、事業所が得意とする分野や事業所が持つ資源を最大限に生かそうとしますが、継続するための人手やコストなどを考えるとなかなか具体化しません。まず、住民のニーズに即した「すぐに役立つ」ことから始めるのです。住民の日常生活を支援する配食や外出支援などがそれに当たります。

■地域貢献事業の事例としては、夏休みの子供の居場所作り、介護の勉強会、独居高齢者の見守りなどから第2種社会福祉事業まで、多岐にわたるものがあります。中には、高齢者の子世代、孫世代に目を向け、塾通いで夕食が不規則になりがちな子供たちに塾で食べる手作り弁当の「塾弁」を提供するユニークなサービスもあります。住民のニーズを把握するときは、どれだけの人が困っているか(量の問題)、困り事がどれだけ深刻か(質の問題)の両面を見なくてはなりません。

■初めて取り組む事業を「できない」「難しそう」と否定するのは簡単ですが「面白そう」「喜んでもらえそう」と前向きな発想で受け止めたいものです。意欲ある職員を担当者に抜擢し、動きやすいように配慮するのが中間管理職の仕事です。地域貢献事業の義務化を地域の期待に応えるチャンスと捉え、小さなことから取り組んでください。

第29回 Care Point

介護者が知っておきたい AEDを用いた心肺蘇生法

［監修］
東京慈恵会医科大学
救急医学講座 主任教授
日本AED財団理事
武田 聡

突然、人が心肺停止で倒れた場合、周囲の人たちが119番通報することは当然ですが、1秒でも早く救命処置を行うことが救命につながります。すばやく落ち着いて行動するためには、予め対処法を学び、練習しておくことが大切です。最近はさまざまな場所にAED（自動体外式除細動器）が設置されています。いつでも誰でもAEDを使用できるように講習を受け、AEDの使用方法を身に付けておきましょう。救急医学専門医であり、AED普及にも取り組む武田聡さんに、高齢者施設の職員が知っておきたいAEDを用いた心肺蘇生法のポイントをうかがいました。

AEDを使用して救命するために

●1秒でも早く救命活動をスタート

119番通報してから救急車が到着するまで、全国平均で約8分。もし倒れた人が心筋梗塞などから心停止に陥っており、何も手当てを受けられなければ、生存率は3分後に約70％、8分後に約20％と急速に下がり、1分ごとに約10％ずつ低下します。だからこそ、周囲にいる人たちの迅速な対応が生死を分ける鍵。救急車を待つだけではなく、1秒でも早く心臓マッサージ（胸骨圧迫）を開始し、AEDを用いた心肺蘇生法（電気ショックを与えること）を行うことが大切です。

AEDは、心臓に電気ショックを与えて心臓が正常なリズムで動くように戻す医療機器です。心肺蘇生を一切行わない119番通報のみの救命率は4.3％ですが、AEDによる除細動を行うと救命率は43.3％にも高まります。

AEDの使用を躊躇する要因の一つに、電気ショックが悪い影響を及ぼすのではないかという迷いがあります。しかしAEDは自動的に心電図を解析して電気ショックの必要の有無を判断し、不要な人では絶対に作動しません。AEDは安全性の高い医療機器ですから、一歩踏み出す勇気を持って、1秒でも早く使用することが重要です。

●心臓マッサージ（胸骨圧迫）も不可欠

AEDの使用時には、必ず心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行います。胸骨圧迫を行うのは、胸骨ごしに胸を圧迫し、動きの止まった心臓を押すことによって酸素を含んだ血液を脳と心臓に送るためです。1分間に100～120回と、思っている以上に早いリズムで、救急車が到着するまで続けます。一人で続けるのは難しいので、駆けつけた職員と交代しながら行います。

「力を入れ過ぎてろっ骨を折るのではないか」と心配される方がよくいますが、強く、早く、絶え間ない胸骨圧迫が不可欠です。手のひらの付け根で、胸の真ん中にある胸骨だけを押すようにします。たとえろっ骨が骨折しても救命が優先ですので、対象が高齢者であっても体重をしっかりかけて胸骨圧迫を行ってください。

●知っておきたい人工呼吸の方法

最近の考え方では、成人の救命処置で人工呼吸は慣れていなければ省略しても良いとされていますが、高齢者施設の職員は人工呼吸も学習しておくとよいでしょう。もともと呼吸機能が低下して、日頃から血液中の酸素が少ない状態の人では、胸骨圧迫を行うだけでは全身に酸素を届けられないため、人工呼吸が必要になることが多いと考えられます。

気道に異物が詰まったときの対処

高齢者施設では、気道に異物が詰まった事態にも対処できるようにしておきましょう。発語はないが、意識があって呼びかけに何らかの反応がある場合には、まず『腹部突き上げ法』か『背部叩打法』を行います。異物が除去できずに意識がなくなったときは119番通報し、AEDを要請して、救急車が到着するまで胸骨圧迫を続けます。

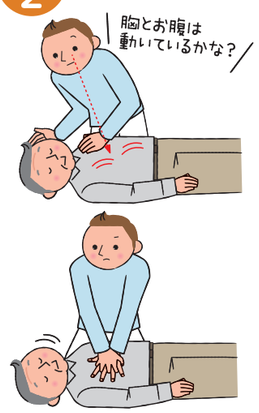
いま、高齢者のための介護・福祉施設にもAEDの設置が推奨されています。各地でAEDの講習会が開催され、AEDの使用法と胸骨圧迫を学習することができますので、職員全員が受講し、いざというときにはためらうことなく胸骨圧迫とAED使用をできるようになっておきましょう。

● AEDを用いた心肺蘇生法 ●

手順1 反応の確認と119番通報/AED要請

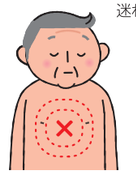
- 周りの安全を確認し、倒れた人の肩をたたきながら「大丈夫ですか?」と声をかけ、反応を確認する
- 反応がない場合、大きな声で周囲の人に「あなたは119番通報をお願いします!」「あなたはAEDを持ってきてください!」と頼む

手順2 呼吸の確認と心臓マッサージ（胸骨圧迫）



- 倒れた人を仰向けにし、10秒以内で、呼吸をしているかどうか胸やお腹の動きを観察する
- 呼吸がないか、普段通り息をしていない場合、すぐに胸骨圧迫を始める

※ゆっくりあえぐような呼吸(死戦期呼吸)やけいれんが認められる場合や、呼吸の有無を判断できない場合は、迷わず胸骨圧迫とAED使用を開始する



胸骨圧迫は

強く	ひじをまっすぐに伸ばし、しっかり体重をかけて胸が約5cm沈むまで押す 押したらすぐにゆるめる
速く	1分間に100～120回
絶え間なく	倒れた人が動き出すか、救急車が来るまで続ける

AEDを用いた心電図解析と電気ショックのために胸骨圧迫を中断しても、その後すぐに再開し、救急車が来るまで続ける

手順3 AEDを用いた電気ショック

① **AEDの電源を入れる**　音声ガイドが始まるので、その指示に従う

② **電極パッドを皮膚に貼る**（パッドを貼る間も、別の人が胸骨圧迫を続ける）
- パッドに描かれた絵のとおりに皮膚にしっかり密着するように貼る
- ペースメーカーが埋め込まれているときはコブのようなものがあるので、そこを避けて貼る

③ **AEDが自動的に心電図を解析**
音声ガイドにしたがって解析中は胸骨圧迫を中止し、倒れている人に触れないように手を体から離す

④ **「電気ショックが必要です」と音声ガイドが流れ、AEDが充電を始める**
充電後に「ショックボタンを押してください」と音声ガイドが流れるので、周囲の人に「離れて」と注意し、誰も触れていないことを確認してからショックボタンを押す
- 必要に応じて、心電図の解析を繰り返すので、音声ガイドにしたがう
- 意識が戻っても、救急車が到着するまでAEDは装着したままにしておく

人工呼吸の方法

❶あごの先を持ち上げ、頭を後ろに反らせて気道を確保

❷鼻を軽くつまんで口から息を吹き込む

※目安は、胸骨圧迫30回に人工呼吸2回
※胸が上がっているか確認する

気道異物除去の方法

発語はないが意識があって呼びかけに応じることができる場合、救助者が1人のときは119番通報の前に、まず腹部突き上げ法か背部叩打法を優先して行う

腹部突き上げ法
❶後ろからウエスト付近に手を回す
❷おへその位置を確認する
❸一方の手を握りこぶしにし、おへその直上に当てる
❹握りこぶしをもう一方の手で握り、すばやく手前上方に圧迫するように突き上げる
※妊婦や乳児には行えない

背部叩打法
後ろから手のひらの付け根で、肩甲骨の中間あたりを力強く何度も叩く

日本AED財団 http://www.aed-zaidan.jp/knowledge/#anchor2/
日本心臓財団http://www.jhf.or.jp/aed/how.html
総務省消防庁 http://www.fdma.go.jp/html/life/pdf/oukyu2.pdf
日本医師会　http://www.med.or.jp/99/kido.html
参考(参照:2017-1-23)

Dケアセミナーの開催報告です。

D-CARE Report

2016年度は全国5カ所でのセミナー、介護の日Dケアセミナーを開催しました。

2016年度は埼玉（川口）、岡山（倉敷）、札幌、新潟（上越）、栃木の5カ所でのDケアセミナー、そして11月11日の介護の日には介護の日Dケアセミナーを開催しました。テーマも自立支援介護、認知症の方への排泄ケア、スキンケア、陰部洗浄と多岐にわたり、現場のニーズの沿った企画内容で展開をしています。

そして恒例となった11月11日の介護の日Dケアセミナーには、三好春樹氏を講師にお招きして「希望としての介護」をテーマにお話いただきました。たくさんのご参加希望を頂戴し、一部のお客様をお断りせざるを得ないほどでした。

2017年度も各地で開催いたしますので、内容についてのご要望等ございましたら弊社担当までお知らせください。

CARE VIEW

KAIGO 未来をつくる CAFE

「これからの介護」について自由に対等に語り合う場

未来をつくるkaigoカフェ

介護職だけではなく、医療、福祉、教育などさまざまな人たちが集い、
立場や役職に関係なく、介護の未来について対等に語り合う場があります。
「未来をつくるkaigoカフェ」(以下カフェ)を主宰する高瀬比左子さんに、話を聞きました。

「未来をつくるkaigoカフェ」代表 高瀬 比左子さん
(写真 近藤浩紀)

●介護について思いを話せる場を作りたい

カフェの活動を始めたのは、介護職として働く中で感じた閉塞感や、他職種と連携していく上での対話力不足を何とかしたいという思いから、という高瀬さん。

「介護の現場では、自分の事業所や施設の中で仕事も人間関係も完結してしまいがちです。先が見えなくなったとき、職場を離れて自分の思いを話せる場があれば、さまざまな人とのつながりが生まれ、刺激しあって互いの視野が広がります。それが新たな一歩を踏み出すきっかけになると思いました」。

●"カフェ"で人と人がつながっていく

カフェを始めて4年が経ち、現在ほぼ月1回のペースで都内で開催し、要望があれば全国各地でも開催しています。毎回テーマを設定してゲストを呼んで話を聞き、参加者同士で気づきやアイデア、意見をシェアします。今ではWEBで告知をすると1～2時間で参加数が埋まってしまうほど人気で、多いときは100名もの参加者が集まります。

参加者の中心は30～40歳代。介護の仕事について問題意識があって試行錯誤している人や、純粋に自分の思いを語れるような場を求めている人が多いそうです。

「自分と同じような思いを持った仲間がいることが分かるだけでも勇気づけられます。職場の外に、介護の仕事を良くしていこうとしている前向きな仲間がいるから頑張れます。このように人と人がつながる場を提供するカフェの活動を、今後も長く継続していくことの大切さを感じています」と話す高瀬さん。

子供たちに介護の仕事の魅力を伝えるため、「小学校での出張カフェ活動もしていますが、誰でも、どこでも同じようにできる仕組みを作りたい」と、活動の新たな展開にも意欲を燃やしています。

ゲストの話を聞いた後、小グループで対話する
(写真 近藤浩紀)

プロフィール
高瀬比左子 さん
介護施設でケアマネジャーとして働きながら「未来をつくるkaigoカフェ」を主宰。介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員。
著書に『介護を変える　未来をつくる――カフェを通して見つめるこれからの私たちの姿』(発行:日本医療企画、2016年)

「未来をつくるkaigoカフェ」の活動やイベントの告知などは、主にfacebookで情報発信しています
https://www.facebook.com/miraikaigocafe/
http://www.kaigocafe.com/　(参照2017-2-1)

こんにちは

今回の"こんにちは"では、
北海道江別市の
特別養護老人ホーム「夢あかり」様、
埼玉県白岡市の「新しらおか病院」様に
おじゃましました。

新しらおか病院

新しらおか病院の皆さんと弊社篠原

サルバ自立支援パッドを使った業務改善事例

新しらおか病院さんは、埼玉県白岡市にある120床の認知症専門病院です。白十字とは開院まもない時期から、長くお付き合いいただいています。今回の取材では、おむつ交換のサイクルを見直して業務改善をはかった事例について伺いました。

「それまでは1日6回のおむつ交換をしていました。そうすると1日ほとんどの時間、おむつ交換をしているような状況でした。さらに尿量の多い方の場合には、夜間、衣類まで汚れてしまうということもあり、白十字さんに相談をして、おむつのあて方研修を実施するとともに、尿とりパッドの見直しとおむつ交換のタイミングを変更しました。変更するにあたってまずは患者様個々の尿量を測定し、見直し前後での効果検証ができるようにしました」そう話されるのは認知症ケア上級専門士の資格をお持ちの、ケアスタッフ統括主任中田さん。中田主任を中心にしてデータを取り、吸収量の多いフレーヌケアスーパーロングとストロング、そして日中にはサルバ自立支援パッドながめを導入。患者様によっては交換回数を減らし、1日4回交換で対応可能な方もいらっしゃいます。「もちろん、スーパーロングやストロングといった高吸収のものをお使いの方は一部です。ですがその一部の方でモレが発生することで多くの時間が取られていたのも事実です。白十字さんにあて方の研修もしてもらったことで、モレの発生は激減し、職員の意識も高まりました。あとは自立支援パッドのギャザーが高いので助かっています」自立支援パッドは立位での交換や、座った姿勢でもしっかり吸収する尿とりパッドとして注目されていますが、高さ約10cmのハイフィットギャザーは、寝た状態の時にも効果を発揮すると高い評価を頂いています。今回、交換回数を減らすことで、患者様と向き合う時間が増えたのが何よりの効果。認知症専門病院ならではの状況として、不穏になる方が多い時間帯を避けて交換サイクルを組み立てる必要があるなど、患者様や現場の状況に合わせながら、交換回数の見直しを随時行なっていきたいとのことでした。

サルバ自立支援パッドに高い評価を頂いたことはもちろん喜ばしいことですが、業務改善により、患者様と向き合う時間が増えたことがメーカーとしても嬉しい事例です。

労力はかかるが「自立支援の取り組みに必要なこと」という認識が、自発的な取り組みを産んでいる、という言葉が特に強く刺さりました。

特別養護老人ホーム 夢あかり

夢あかりの皆さんと弊社佐藤

全職種参加で毎朝1時間のミーティング

札幌から車で1時間ほど走ったところにある、江別市の特別養護老人ホーム夢あかりさん。平成23年の開設当初にはまだ珍しかった、地域交流スペースを設けた特養としてオープンして以来、新しい取り組みを進めて来られました。中でも他の施設から注目を集めているのが、毎朝1時間かけて行われている全職種参加のミーティングです。

「全職種とは、施設長から相談員、総務、ケアマネジャー、介護、栄養、看護、機能訓練までを指します。申し送りはもちろんですが、直近の報告、気になっていること、感染対策・事故対策、時にはカンファレンスまで行います。カンファレンスを受けてそのまま皆で居室まで行って検討することもあります」そう語るのは吉谷施設長。ミーティングは朝8時40分からの約1時間。貴重な朝の時間にこれだけのメンバーの時間を割くことは、実際のところ無理なくできるものなのでしょうか?聞けば他の施設さんからも同様の質問をよく受けるそうです。「現場スタッフは始めから"そういうもの"と思ってやっていますから、全く問題はありません。他の施設に比べて、手厚く人員配置がされているわけでもありません。ただ、スタッフをユニット固定にしないようにはしています。複数ユニットを行き来することで、人手が必要なところを補い合えるようになっています」自律支援課の伊藤課長が説明してくださったこの仕組みに、合理的かつ理想的な施設運営の1つのヒントがあるように感じられます。その時起きている問題について、どんなことでも朝のミーティングで共有し、場合によってはそこですぐ解決してしまう。このスピード感があるから、朝の1時間を負担ではなく貴重な時間にしているのでしょう。介護福祉施設に限らず、あらゆる組織運営のモデルになり得るのではないかと感じました。

月1回の
介護力向上委員会

2017年3月31日発行　発行者/白十字株式会社　〒171-8552 東京都豊島区高田3-23-12

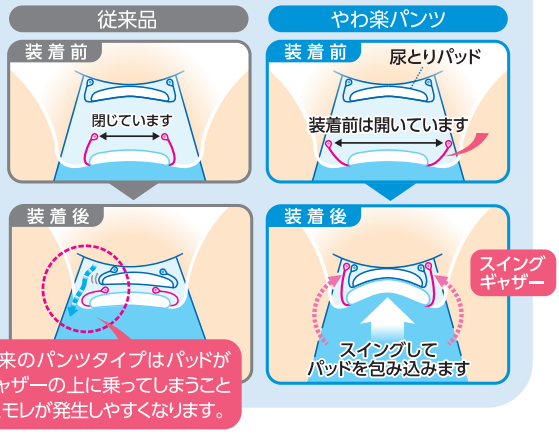
発売間近!

うす型 サルバ やわ楽パンツ 全方向フィット

日中~夜間まで使える パンツタイプ

スイングギャザーが 大型のパッドもしっかり固定!

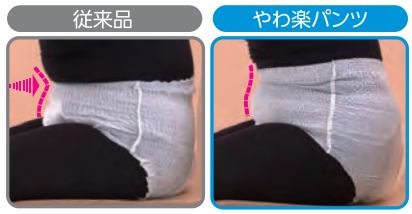
パンツを引き上げると、装着前は開いているギャザーがスイングして立ち上がり、パッドを包み込みます。大型パッドとの組み合わせでもご使用できます。



ウエストサイズ 55~75cm	ウエストサイズ 60~90cm	ウエストサイズ 80~115cm	ウエストサイズ 100~125cm
S	M	L	LL

モレ防止と快適さを同時に実現した はじめてのはき心地

おなかは「楽(らく)」に、モレやすい背中・下腹部はフィットさせる、全方向フィット

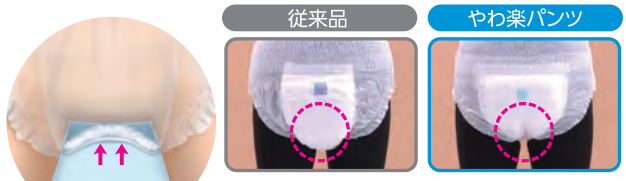


おなかを締め付けるため座ると苦しくなります

ボディラインにらくらくフィットします

加齢に伴って体型は変化します。高齢になるほど胴回りは大きく、おしりは垂れ下がってきます。そこで、やわ楽パンツではおなかとおしりはゆったりさせ、モレにつながりやすい下腹部とウエスト部をしっかりフィットさせる構造を採用しました。

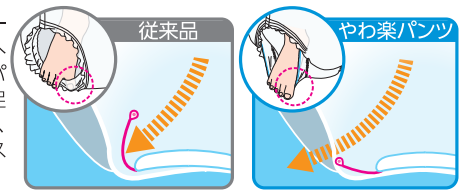
尿とりパッドをフィットさせてモレを防ぐ



長めのフィットアップギャザーが尿とりパッドを押し上げて尿道口にフィット。モレを防ぎます。

スイングギャザーで交換らくらく

スイングギャザーは装着時に外側へ開いているため、パンツを履く時に足がひっかかりにくく、立位での交換がスムーズになります。



新開発 ムレやすいウエスト部分の 通気性 ぐ~んとアップ!※

※当社従来品との比較

お肌ケアを考えた 素肌と同じ 弱酸性素材

※吸収体のパルプ層のpH値を、弱酸性に調整しています。

編集部より

2016年の「介護の日」前日にあたる11月10日、医療・介護現場を変革し国民の将来不安を払拭することを目的に、政府の成長戦略の新たな司令塔「未来投資会議」が開催されました。団塊の世代が75歳を迎え、介護人材不足の深刻化、医療・介護費用の増加が見込まれる2025年問題まで10年を切った現在、こうした問題に対して全く新しい視点で臨まなければ解決の糸口すらつかめません。その新たな切り口としてデータ分析、ICT、人工知能、ロボットといった最新テクノロジーと並んで、白十字でもいち早く取り組みを進めている「自立支援介護」が取り上げられることが決まっています。介護保険財政の改善だけでなく、高齢者のADLを高め、スタッフの達成感にもつながるのが自立支援介護です。より一層注目を集めるであろうこの取り組みについて、私たちも最新の情報をお届けしてお役に立てるように努めてまいります。

お問い合わせ お便りは

白十字株式会社
「D-wing」 編集部まで

〒171-8552
東京都豊島区高田3-23-12
TEL.03-3987-6974